

実施日：2022年11月12日（土）9:00～12:30

参加者：6名

学生：4名

教職員：杉山、中澤、阪本

学外参加者：1名

■実施場所：奈良公園（春日大社境内地・飛火野・浅茅が原）

■第8回 高円山の自然

概要：春日大社の境内地から、参道にかけての奈良公園エリアを歩きながら、特徴的な樹木などを観察する。また、自然の中で遊びながら学ぶアクティビティを体験する。

- 9:00 春日大社本殿バス停（春日大社国宝殿前）・挨拶
- 9:10 春日大社境内・ささやきの小径（下の禰宜道）
- 10:20 飛火野裏手（芋畑跡）
- 11:30 鹿園裏を通り飛火野へ
- 12:10 飛火野から浅茅ヶ原・春日大社参道へ
- 12:30 春日大社参道、竹の生えたムクロジを観察・ふりかえり・解散

■概要報告

奈良公園の自然は、シカの影響は色濃く見えるものの、秋の紅葉などが美しい貴重な自然環境である。今回のフィールドワークでは、奈良公園の特徴的な樹木の観察と秋の自然をゆったりと楽しむことに重点を置いて実施した。冒頭に、9マスのネイチャービンゴを配布し、それらを見つけながら歩くことを意識させてスタートした。

集合場所である春日大社本殿バス停（国宝殿）から南には、春日大社の境内地の森が広がっている。冒頭は、奈良公園平坦部で一番大きいと言われるスギを観察したのち、高畑へと続くささやきの小径（下の禰宜道）へ。落ちている異なる種のどんぐりを比較し、ルーペを使って特徴を確認した。

その後、ささやきの小径から、飛火野裏へとつながる道の途中で、五感で自然を感じるアクティビティを実施した。その後移動中に鏡を使って歩くアクティビティなどを織り混ぜながら、飛火野裏にある芝地へ到着。この場所は、戦後に芋畑となっていたようで、現在も畝の後が残っている。

この場所で、各自で会話をせず自分の気に入った場所をみつけて一人で過ごした。

日向ぼっこをして寝転がったり、木々から葉が落ちる様子を写真に収めるなど、それぞれが自然の中で時間を過ごした。それぞれの時間をどう過ごしたかを共有したのち、葉っぱを使ったアクティビティ「葉っぱジャンケン」や「葉っぱのグラデーション」のほか、耳を澄ます体験など実施した。

その後、拡張された鹿園を通って飛火野へ抜けた。飛火野からは、御蓋山・春日山を確認することができた。その後、春日大社参道へ移動し、御旅所にておん祭の準備が進められていることを確認した。新型コロナの影響で、近年は一般が見学することができなかったため、学生たちもおん祭について、知らないと話していた。終着点は、参道脇の竹が生えたムクロジ。ムクロジの大木からなぜ竹が生えているのか、周辺の観察やシカの影響について考えた。

最後にそれぞれの振り返りを共有して終了した。

■写真



春日大社境内の大杉



ささやきの小径にて。ナギの解説



飛火野の裏（芋畑）の風景



葉っぱを探して歩き回る



葉っぱのグラデーションづくり



葉っぱのグラデーションの感性



色とりどりの紅葉が見られた



飛火野から御蓋山・春日山を遥拝する